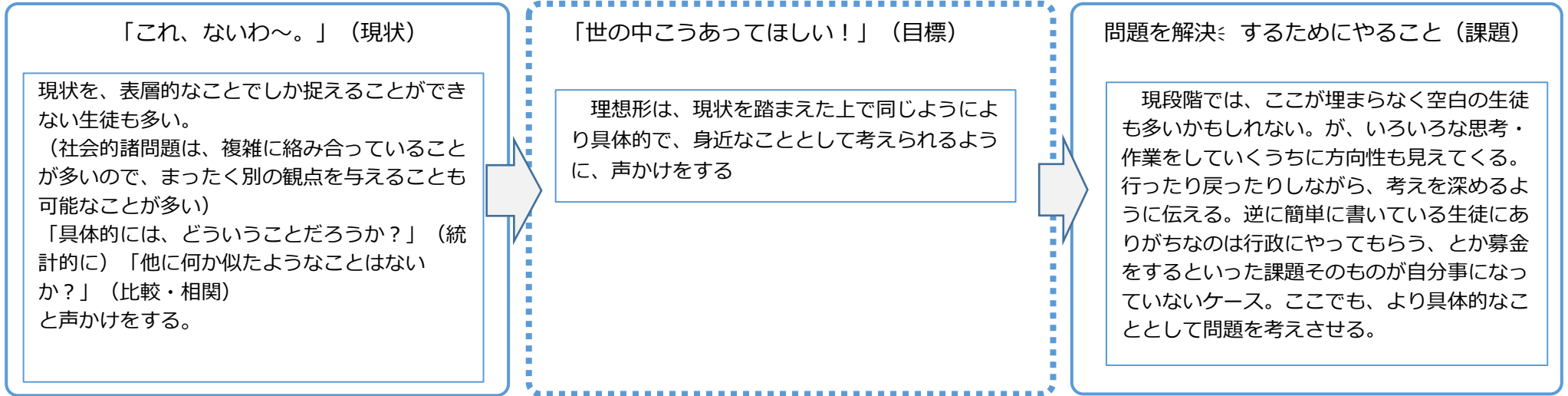


■ 参考文献などから見えてきたものを整理しよう（箇条書きで）



■ キーワード

個人探究の担当者に説明するために必要なことば、気になっていることばを調べよう！

①

②

③

④

⑤

これは必要だなということばや気になることばをもう一回きちんと文献で調べると、意味を正確にとらえていない（わかったつもりになっている）ことも多いので、定義を確認する意味でも調べさせる。
語の定義が間違った状態や知識が少ない状態で探究活動に入ると、後で根底から崩れることも多々あるので本人が困る。
ネット上の情報を鵜呑みにしない。データの新旧など、メディアリテラシーの涵養にも関わる。
特に「多い」「少ない」という量の表現や、情動的な表現は果たして本当にそうなのか、データにあたらせ、科学的に事実確認させる必要がある。

* 参考資料を必ず記載させる。後の調査に役立つ

参考資料

：書名	著者名	出版社名	発行年
：書名	著者名	出版社名	発行年
：書名	著者名	出版社名	発行年

■ 探究の背景（社会的な背景、フィールドワークなどの活動や今までの学びで得られたこと、興味・関心・動機 を箇条書きで）

大事なのは、班メンバーの興味・関心
1年間やり通せるモチベーションを大切にする。

■ これから取り組むテーマ（仮）

理想形は ①内容がわかるようなもの ②着眼点が見えるもの ③名詞で終わる だが、なかなかすぐにはできないので、前述のキーワードを元に担当教官が初見でわかるようなテーマを考えるように指示。
たとえば、×「海洋プラスチック汚染」について ○「宍道湖におけるプラスチック汚染の原因」に関する研究
* 別紙参照：こういうテーマはやめた方がいい（A4横）

■ 探究の進め方

今、わかっていること

足りないと思うこと

現在、進める上で問題だと思っていること

研究手法の選択、作業工程表の作成・実施に関わる
費用や日程や人員を概算していくことも考えさせたい。

探究計画書（Research Proposal）チェック項目

R 班 NO. 氏名

指導教官

提出確認 再提出確認 探究開始

■ テーマ

担当教官が初めてみても、分かるようなテーマをつけましょう。※ テーマに関しては、よく考えたうえで変更してもかまいません。
①探究する内容が分かるか ②着眼点が見えるか

■ キーワード（研究を進めるうえで、大切だと考えているキーワードを3つに絞って挙げる）

■ 探究の背景（初めて話を聞く人でもわかるように必要な情報を紹介し、動機についても述べる）

- ①みんなが納得できる背景か
②社会事情などを誤って（矮小化して）とらえていないか
③自分事（じぶんごと）になっているか（自分や自分が暮らす社会に関する問題や課題と結びついているか）
④何のためにこの探究を行うのか（探究の目的や意義）を説明できているか
⑤これまでに似たようなテーマの研究・取り組みはなかったのか（先行研究、先行事例の調査はしたのか？）

■ 探究手法 ☆データサイエンスは必須 その他（✓を入れる。複数用いる場合は複数に✓）

- ☐ 文献調査 ☐ アンケート調査 ☐ インタビュー調査 ☐ 参与観察
- ☐ 実験 ➡実験の対象教科に○をする 物理 ・ 生物 ・ 化学 ・ 地学 ・ 数学 ・ 生活科学 ・ その他()

☆データサイエンスの視点（どのようなデータを収集・参照し、どのように分析するか など）
信頼できるデータをどこからどのように集めるのか、なぜそのデータが必要なのかを考えて記す。

探究手法を選んだ具体的な理由（箇条書き）

- ①手法に不備や不足はないか。最適な手法だと思うか
②実行ができそうか。調査や実験に関するリスク管理はできているか
実験の場合：研究に用いる試料が入手できるか（費用、時期など）、実験装置が使用できるかどうか
アンケートやインタビューの場合：☐ 対象地域、☐ 対象者、☐ どのような状況において、☐ いつからいつまでの実施を想定できているか

※ 留意点
校内でできる調査・実験には限界があるので、担当の先生に相談しましょう。
校内一斉アンケートはできません。

■ 取り組み可能な探究だと思うか（✓を入れる。） ☐ はい ☐ いいえ ☐ 先生と相談しないとわからない

その理由を箇条書きで（ ☒ 先生と相談しないとわからない人は、どこが不明なのかを挙げる）

- ①1年間の研究に耐えうる内容か
例すでに答えのある問いではないか/すぐに結論の出る問いではないか
※ 現時点で解決していない問題が望ましいです

■ まとめ（探究の結果についての予測と意義）

- ①根拠はしっかりしているか
②この探究がどのように役立つか説明できているか